

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005年3月31日作成)

委員会名	骨材品質調査研究小委員会	主 査 名：清水昭之
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (鉄筋コンクリート工事運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2004年4月 ～2007年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>最近の多様化する骨材事情の現状把握と新たな骨材の基準化を目的とする。</p> <p>2004年度 人工骨材に関する文献整理 電気炉酸化スラグの指針作成</p> <p>2005年度 人工骨材に関する資料とりまとめ 電気炉酸化スラグの指針刊行 再生骨材の取扱いに関する検討</p> <p>2006年度 人工骨材の技術の現状とりまとめ JASS5 の骨材規定の見直しの検討</p>	
委員構成 (委員名(所属))	清水昭之(東京理科大)、阿部道彦(工学院大学)、伊藤康司(全生連)、井上和政(竹中)、嵩英雄(工学院大)、菊池雅史(明治大)、立屋敷久志(三菱マテリアル)、棚野博之(国土交通省)、二村誠二(大阪工大)、萩ノ谷克範(都市公団)、畑中重光(三重大)、藤木英一(日本メサライト)、真野孝次(建材試験センター)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>人工骨材 WG：従来の膨張頁岩系の人工軽量骨材のほか、最近では様々な原料、製法、密度の人工骨材が生産されている。この WG では、これらの人工骨材の技術の現状をまとめ、今後の骨材開発、利用に資することとする。</p> <p>電気炉酸化スラグ指針作成 WG：鉄スクラップから鋼の製造するときに産出される電気炉酸化スラグを建築用コンクリートの骨材として利用するために、委託研究として実施してきた成果を踏まえ、本会より指針を刊行することとする。</p> <p>再生骨材 WG：コンクリート塊より製造される骨材の JASS5 の中での取扱い方法について検討することとする。</p>	
2004 年度予算	150,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会 回 人工骨材 WG 6回 電気炉酸化スラグWG 9回
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2004年度は、人工骨材WGで、昨年度までに収集した最近10年間の文献の整理を項目ごとに行い、とりまとめに当たっての問題点を抽出した。また、最終成果となる技術の現状(仮称)の目次案および実験的検討を要する事項の検討を行い、今後の活動予定を定めた。</p> <p>電気炉酸化スラグWGでは、委託研究の成果に基づき、電気炉酸化スラグ細骨材を使用したコンクリートの指針案を作成し、所属運営委員会の査読を受けた。この指針案により、高炉スラグ、フェロニッケルスラグ、銅スラグに次いで、これまでコンクリート用骨材として利用できなかった電気炉酸化スラグの有効利用に資することとなり、技術的・社会的意義は大きい。</p> <p>委員会 HP アドレス： なし</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> ほぼ当初計画どおり
その他評価すべき事項	なし